

# ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 心身健康科学科

名 前 鈴木康弘

作成日 2025年4月25日

## 1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

### 《本大学での責務》

臨床心理学や医療心理学、精神科コンサルテーション・リエゾンを専門とする立場から、学生の学修ニーズが高い「こころ」に関連する心理学分野を心身相関との関連性を取り入れながら授業を行い、本大学で取得可能な資格である「認定心理士」を推進していく責務がある。

また、4年次の担任教員として卒業に向けて現状の学修状況の相談に乗り、大学院進学を志す学生には学修への想いをよく聴き、必要な学修方法を教示している。長年にわたり多くの大学生や社会人の心理的支援をしてきた臨床経験を活かしつつ、本大学の理念に基づいて、各学生それぞれが生きる知恵を習得し、将来に向かって羽立っていくことを支援し、教育する責務があると考えている。

#### 【人間科学部 心身健康科学科での担当科目】

こころの科学

こころの科学と検査（基礎）

こころの科学と検査（応用）

心理検査法実習Ⅰ

心理検査法実習Ⅱ

人間関係とこころのしくみ（N）

臨床心理学概論

こころの健康と病（T）

こころの健康と病（N）

青年期心理学

現代家族論

カウンセリング入門

青年期のこころの発達

こころの健康と家族関係

カウンセリングのすすめ

人間総合科学の理解Ⅰ・Ⅱ

人間総合科学の探求Ⅰ・Ⅱ

#### 【人間科学部 健康栄養学科での担当科目】

カウンセリング論（前期）

カウンセリング実習（後期：23コマ）

#### 【保健医療学部 看護学科／リハビリテーション学科での担当科目】

人間関係論（前期：看護学科）

人間関係論（後期：リハビリテーション学科）

#### 【学内での委員会活動】

FD/SD推進委員会、危機管理・衛生委員会、アドミッション委員会、広報委員会

## 2. 理念（教育に対する考え方）

医療現場の中では公認心理師や臨床心理士を目指す大学院生の実習指導者として教育に携わったこともあり、第一種衛生管理者として従業員のメンタルヘルス支援や社会人の睡眠衛生指導にも携わってきた。臨床心理学のみならず、学習心理学や教育心理学に基づいて、学生一人ひとりに合ったキャリアデザインを一緒に考えながら、本大学が目指す「自立」と「共生」の心を育むことができるように、教員も一緒に学修する姿勢を大切にしたいと考えている。授業においては、「こころ」の科目の中でも臨床心理学の立場から、長く身体医療に携わった臨床経験を元にして「からだ」との関連が重要であるという点を教育の中で意識している。

本大学通学課程の保健医療学部や人間科学部健康栄養学科の学生に対しては、看護師や理学療法士、管理栄養士といった国家資格を目指しているため、筆者が長年勤務してきた大学病院精神科や急性期総合病院での臨床実践を元に、現場に出た時に有益となるような実践的事例を提示し、アクティブラーニングなどの講義を展開している。

## 3. 方法（教育方法において大切にしていること）

紙面による小テストやリアクションペーパーを積極的に活用している。履修者数の多い授業を担当することが多く、残念ながら一人ひとりの学生と対話することは難しい。そこで、初回の授業アンケート、毎回の授業での小テストや確認学修テストを導入している。その日の授業の直後に学修したことを1つでも良いので紙に書き出し、白紙で提出しないようにと伝えている。また、各授業では配布資料を準備して、穴埋め形式にすることで、できるだけ主体的に聴講して貰いたいという意味を込めている。

授業内ではアクティブラーニングとして簡単な心理テストに回答する実習を取り入れたり、近くの学生とペアを組んだり、複数名で取り組むワークを実施し、ロールプレイなども取り入れている。ペアワークでの授業形態だと、学生達も明るく盛り上がることが多い。その他、視聴覚による学修が得意な学生も想定して、動画視聴による学修も取り入れている。スクーリング授業では全国から学生が蓮田キャンパスに集まるため、お昼休みの時間も貴重であることから、ビデオ動画を配信するなどして学修機会を工夫して提供している。

#### 4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

今年度は初年度であり、専任教員になってからまだ学生からの授業評価アンケートによるフィードバックを得ていないが、非常勤講師としてスクーリング授業を行ってきた中で、正規のアンケートとは別に、担当講師としても独自に学生からの意見を得るため、感想記入やアンケートを実施し、学生の声やフィードバックに向き合ってきた。

その中で、ごく一例となるが、既に「方法」で挙げた配布資料については、見やすさを重視してできるだけカラー印刷で配布することで学生の声を反映した。

その他の意見では、実習講義の時に講師も手を動かしながら解説するため、講師が小声になることもあり、授業がより聞き取りやすいようにピンマイクを使用してほしいといった意見を頂き、今後導入予定であるが、このように自らの特徴も省みつつ、より良い学修機会を提供できるように日々努力していきたい。

#### 5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

まず短期的目標は、着任1年目のこの1年間を通して、本大学の専任教員としての業務を全うすることにある。**Zoom**による学生面談や、動画配信による授業の制作も不慣れであり、学生さんからの問い合わせに応じてその都度改訂・改良していく必要がある。通信制ならではの技術面は経験の蓄積が必要かもしれないが、「生き抜くための知恵」を学生にしっかり伝えられることを目標としていきたい。

また、中期的な目標として「こころ」の立場から「からだ」を理解するための心理検査や心理アセスメントを心身相関の視点から概論をまとめて、学生にも授業で活かして貰える分かりやすい入門的な教材を執筆して届けられるようにしたいと考えている。